

## 23 脱炭素時代のエネルギー政策

### (88) 脱炭素時代の奈良県エネルギー政策

#### ここまで良くなってきました

2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを宣言し、脱炭素エネルギー政策とCO<sub>2</sub>吸收源の整備となる森林環境管理政策を両輪で実行するための取組を進めてきました。

##### 1. 脱炭素エネルギー政策

再生可能エネルギー設備導入支援や省エネの普及啓発を実施した結果、再生可能エネルギーによる電力自給率は、令和2年度までの目標である22%を達成しました。

- バイオマスの利用促進、家庭・事業所における創エネ・省エネ・蓄エネ設備導入支援等、エネルギーをかしこく使う取組を実施
- 県内初の水素ステーション開所を機に水素エネルギーの普及啓発を実施



水素ステーション奈良大安寺

##### 2. CO<sub>2</sub>吸收源の整備となる森林環境管理政策

令和3年度から令和7年度までの取組を「奈良県森林環境の維持向上及び県産材の利用促進に関する指針」として令和3年4月に施行しました。

- 森林経営計画等に基づく森林施業面積  
R1:3,768ha→R7:6,800ha
- 混交林への誘導整備面積  
R1:Oha→R7:1,100ha
- 人材育成・確保  
R3.4に奈良県フォレスター・アカデミーを開校



奈良県フォレスター・アカデミー

#### もっと良くするために

脱炭素を指向し、強靭な社会の構築に向けたエネルギーのかしこい利活用の促進と新たな森林環境管理による森林整備を通じたCO<sub>2</sub>削減を実施するため、県条例の制定を視野に入れ、本県独自の制度設計に取り組みます。

脱炭素社会の構築に向け、「温室効果ガスの排出削減」と「CO<sub>2</sub>吸收源の整備」を両輪で推進するため、脱炭素アクションプランを策定します。

##### 温室効果ガスの排出削減 「奈良県エネルギー・ビジョン」による推進

温室効果ガスの発生源で大きなウエイトを占めるエネルギーの使用量を抑制

- 省エネ・節電等の推進  
・奈良の省エネスタイルの推進

発電時に温室効果ガスを発生させない発電への転換

- 再生可能エネルギーの活用  
・木質バイオマス利用促進  
・水素利用促進  
・(新)奈良県版シナリオの検討

移動時に温室効果ガスを排出しない移動手段への転換

- 自動車等の移動発生源対策  
・次世代自動車の普及促進

##### CO<sub>2</sub>吸收源の整備

「奈良県森林環境の維持向上及び県産材の利用促進に関する指針」による推進

CO<sub>2</sub>の吸収源となり得る森林面積の拡大

- 健全な森林の整備

- ・新たな森林環境管理の調査研究  
・奈良県フォレスターの配置検討  
・恒続林(混交林)への誘導整備  
・フォレスター・アカデミー運営推進

CO<sub>2</sub>を吸収して固定する量の増大

- 県産材の需要拡大

- ・建築物の木造・木質化推進や技術者の育成

令和4年度予算案 1,388百万円  
令和3年度2月補正予算案 224百万円